

はっくつ ～発掘でわかる戦争への備え～

年 組 名 前

だいにじせかいだいせん
第二次世界大戦の末期になると、くうしゅう
空襲に備えるためのてつき
敵機の見張所や飛行場を守るための
こうしゃほうじんち
高射砲陣地が築られました。

challenge

① 右の2枚の写真は、敵機しよつらいの襲来をみつけるための見張所でした。つくられた場所に共通する点は何でしょう？

- 山の上にある。
- 見晴らしのいい所にある。
- 地図で見ると、海に面した所にある。

さいごう
西郷の見張所



きたはま
北浜の見張所(出雲市十六島町)
うつぶるいちよう



② この穴は何でしょう？

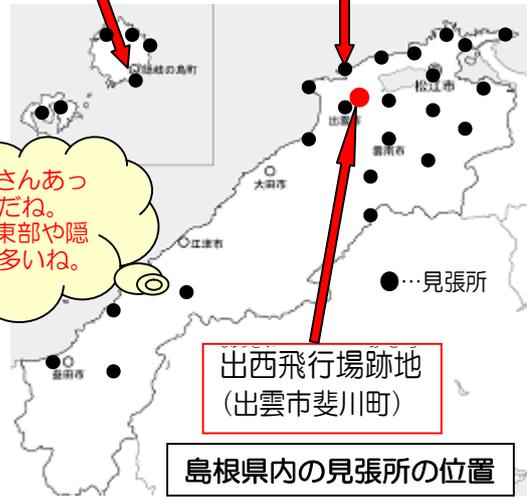


(外から)



(内部の様子)

• たくさんあったんだね。
• 県の東部や隠岐に多いね。



出西飛行場跡地
(出雲市斐川町)

島根県内の見張所の位置

直径約4m、深さ約2mのコンクリート製の筒が埋め込んであります。

• 敵の飛行機が来るのを、音で知るための穴

攻撃に備えるために、いろいろな工夫をしていたんだね。

ヒント…中に入って耳をすま
せば…聴音壕といひます。



コラム

しゅっさい
出西飛行場の高射砲陣地 (斐川町) ~
こうしゃほうじんち

出西飛行場は、1945年7月、島根県で初めて空襲がありました。発掘された高射砲陣地からは、土台に使われた角材やボルト、ナットが発見されました。写真の丸い穴の上に高射砲が置かれていました。



高射砲陣地の跡